

会議録

平成28年7月7日(木)場所 3階 第5研修室

会議名：第5回総合交通体系調査特別委員会

出席委員：吉田委員長、竹田副委員長、佐藤委員新井田委員、平野委員、相澤委員
手塚委員、福嶋委員、鈴木委員、又地委員

欠席委員：なし

会議時間 午後1時00分～午後4時35分
事務局 吉田、西嶋

会議次第

1. 委員長挨拶

吉田委員長 皆さん、こんにちは。

ただいまから第5回総合交通体系調査特別委員会を開会いたします。

ただいまの出席委員は10名でございます。

よって、木古内町議会委員会条例第14条の規定による委員定足数に達しておりますので、会議は成立をいたしました。

ただちに本日の会議を開きます。

本日の会議次第は、別紙配付のとおりであります。

委員におかれましては、一昨日の全道研修会に引き続き、昨日帰町という大変なスケジュールの中で、今回総合交通体系調査特別委員会の委員会であります。

いままで、今回の高規格の道路ということで、担当課に調査をしたところ、今回高規格道路の現場の進捗状況等を開建の村上所長が来て説明をしていただけるそうなので、その辺も含めながらきょうはいきたいと思っておりますので、よろしく願います。

その前に道南いさりび鉄道の運営及び経営状況に関することも担当課のほうから説明がございますので、皆さんよろしく願います。

2. 調査事項

(1) 道南いさりび鉄道の運営及び経営状況に関すること

吉田委員長 それでは早速、調査事項に入らせていただきます。

1番目の道南いさりび鉄道の運営及び経営状況に関することでございます。それでは、福田課長のほうから説明をお願いいたします。

福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 皆さん、どうもご苦労様でございます。まちづくり新幹線課でございます。

それでは、私のほうからは調査事項(1)道南いさりび鉄道の運営及び経営状況に関することについて、ご説明を申し上げます。

資料の1ページをご覧ください。

はじめに、道南いさりび鉄道の利用状況でございます。

3月26日の開業から5月末までの利用状況でございますが、一日あたりの乗降客数でございますが、3月は約2,300人、4月は約2,000人、5月は約2,200人となっております。経営計画では、一日2,148人と見込んでおりましたので、概ね計画どおり推移しているという状況でございます。

次に、観光列車ながまれ海峡号の運行状況でございます。

5月28日から隔週土曜日に運行しております、ながまれ海峡号でございます。8月20日まではほぼ満席でリピーターも現れているという状況で、9月・10月の運行につきましても現在チケットを販売してございますが、満席が見込まれているという状況でございます。順調に運行をしている状況でございます。

特に、本州方面からの問い合わせが増えているということで、北海道新幹線を利用した道南旅行の一つとして、認知されはじめてきているのかなというところでございます。

次に、道南いさりび鉄道のイベントの開催状況についてでございますが、ゴールデンウィーク期間の4月29日から5月8日までの10日間、木古内駅待合室の旧キーコショップに臨時販売所を設けまして、鉄道写真展と合わせ、道南いさりび鉄道グッズとお土産品の販売、観光マップやチラシの配布を行ってございます。

期間中の4月29日は函館市、5月3日は北斗市、4日は当町のPRを兼ねたグッズ等の無料配布も合わせて行ってございます。

次に、七夕イベントでございます。

7月1日から本日7日までの7日間、七重浜駅、上磯駅、木古内駅に短冊と笹竹を設置いたしまして、いさりび鉄道利用者の方々に、自由に願い事を書いていただき、飾っております。

期間中の7月2日・3日でございますが、七夕の風習にちなみまして、小学生以下のお子様にもお菓子の配布等も行っております。

次に、鉄道フェスティバル in 函館の開催でございます。

これは、今後7月30日に開催されるイベントでございます。午前10時から午後3時まで、場所はJR貨物函館貨物駅、有川埠頭でございます。

主催につきましては、JR貨物さんで、内容については機関車の乗車体験、ながまれ号の見学、キーコやザーシーほっきーとの記念撮影会等を行う予定でございます。道南いさりび鉄道におきましては、ながまれ号の展示やグッズ販売等を行う予定となっております。

次に、2ページをご覧ください。

道南いさりび鉄道地域応援隊の活動について、ご説明を申し上げます。

平成28年度の活動につきましては、いさ鉄PR・支援活動、駅周辺の美化活動、イベントチラシ・ノベルティ配布、観光パンフレット作成の4項目に取り組むこととしてございます。

予算でございますが、はじめに収入でございます。

負担金は30万円で、沿線3市町から各10万円ずつをいただくことになってございます。

補助金は、北海道地域づくり総合交付金を30万円計上してございます。

支援金といたしまして3万6,605円計上してございますが、これは北海道コカコーラボトリ

ングからの協賛金でございます。繰越金は、66万3,395円でございます。

次に、支出でございます。

活動費は27万円でございます、いさ鉄PR・支援活動、駅周辺美化活動に要する費用でございます。

広告宣伝費は60万円ございまして、チラシ・ノベルティ配布、観光パンフレット作成に要する費用でございます。

会議費は40万円で、日本旅行に対するアドバイザー料、応援隊員への謝金これらでございます。

事務費は3万円を計上いたしまして、収入、支出ともに、130万円の予算となっております。

以上で、説明を終わります。

吉田委員長 ただいま福田課長のほうから説明がございました。町長のほうから補足か何かございますか。

町長。

大森町長 ありません。

吉田委員長 それでは、委員のほうから質問を受けます。

新井田委員。

新井田委員 いま、いさ鉄については縷々ご説明をいただきました。概ね非常に良好な形で推移しているということですが、特にながまれ号に関しては、ニュース何かでもチラッと何回かマスコミに出た件があるのですけれども、おそらく委員の皆さんは知っているかもしれません。私は、ちょっとあまり具体的にはわかっていないのだけれども。

いま要するに、五稜郭一木古内間ですか。その中で土曜日ということですが、内容をチラッと例えば茂辺地でどうのこうのというようなことも聞いていますし、もう一度その辺の再確認をさせていただければと思います。

もう一つは、私はこの間も道の駅の調査の中で、やはりいまは大変新幹線ブームの中で、非常に人為的なものも良い形で推移されていると。しかしながら、やはりそういう部分はそういう部分としてきちんと捉えなければいけないのですけれども、要はやはりニーズをどうやって今後も。いろいろリピーターもあるということですが、やはりその辺を考慮した中ではアンケート。この辺もきちんと充実された中で、一つはやはりお客さんの声に耳を傾けるという姿勢は大事ではないかと思うのですけれども、その辺についてはいまの状況は、そうされているのかどうか。その辺をもし今後そういう形でやれるのか。やれるのかと言えばやれるのだろうけれども、その辺を聞きたいです。

吉田委員長 福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 ながまれ海峡号につきましては、函館を出発し函館に帰るということで、木古内の往復ということで、約3時間半程度の時間をかけて往復してございます。

ツアーの内容でございますが、函館を出発して、まず函館市で調達した海鮮スイーツどんぶり。これは、クリームやゼリーでイクラや鮭等の海産物を模したスイーツ、これをまず食しながら木古内まで向かうというツアーのはじめになっています。

それから途中停車をし、停車駅は上磯・茂辺地・木古内だったと思います。全ての駅に

停車するわけではございません。木古内に停車をしますと、約45分間停車時間がござい
ますので、その間、降車・停車の時間を差し引いて、概ね30分程度は木古内に滞在できると
いうことで、私どもも応援隊の一員としてお出迎え等を手伝いながら、道の駅にご案内を
したり、あるいはまち歩きをしたりということで、その30分の中で木古内の町を楽しんで
いただいているという状況でございます。

帰りにつきましては、どうなん d e' s の前菜オードブルというようなことで、概ねス
ープとちょっとしたつまめる酒の肴になるような前菜、この二品と塩パンです。これを木
古内の今度は地場産品ということで、車内で食べていただいて、茂辺地の駅まで行きます
とまた停車をして、今度茂辺地の駅では貝鮮焼弁当ということで、これは現在では牡蠣は
もう時期は外れますけれども、これまでは牡蠣とつぶを焼いて、それにご飯を少し加えた
ような形での函館では海鮮スイーツ、木古内ではイタリアンのオードブル、茂辺地・北斗
市では貝鮮焼、こういったコンセプトを変えた食事内容を提供しているということで、そ
の貝鮮焼を食べながら函館駅まで帰っていただくと。途中、上磯駅の停車時間を少し長く
するとか、あるいは漁り火の見える区間を徐行運転するとかというような工夫を凝らして、
ツアー利用者のかたに満足感が得られるような工夫をしているという状況でございます。

このツアーの主催につきましては、日本旅行者でございまして、この日本旅行というの
は日本ではじめて旅行会社として設立された会社ということで、主に三セク鉄道の鉄道旅
行については、非常にノウハウをたくさん持っている会社というふうに伺っております。

それから、ニーズを把握するためのアンケートということでございますが、これにつき
ましてはツアーにいさりび鉄道の社員が常に乗務して、そしてバックヤードから飲食物の
提供等を行っております。その中で、利用者のかたとの会話等の中で、把握しているもの
というふうに思います。

アンケートの実施につきましては今後、会社のほうにそういった声もあるということをお
伝えしていきたいなというふうに考えます。

吉田委員長 新井田委員。

新井田委員 わかりました。いずれにしても、やはり客に対する取組姿勢というのは、非
常に大事だと思います。そういう中では、やはりそういう質を高めていくということが大
事じゃないかなというふうには思っているのですけれども、そのためには何をやるのとい
うことですから。お客様は物珍しさ、そういう部分もあるいは興味も当然あるでしょうし、
そういう部分でリピーターがまず「また来たい」という思いがなければ、なかなか先細り
になってしまうような状況も考えられますので、その質が高いと自ずとお金の部分でも多
少高くても、私は結構利用してくれるのじゃないのかなと思うのです。そういう意味では、
やはり全体的なクオリティを高めていくということにまず今後、アンケートも含めてご尽
力いただければと思っています。要望です。

吉田委員長 ほか。

竹田副委員長。

竹田副委員長 いさ鉄については、当初予定より利用者が増えているということで、大変
良い傾向だなというふうに思います。当然、いま新井田委員も発言をしたように、これか
ら多くのお客さんを増やすという部分からすれば、私は2ページのいさりび応援隊の部分
で予算を130万円かけて、これを見ますと駅周辺の環境美化活動が大きな仕事になってい

るというふうに思うのですけれども。ただ、先月の末に駅周辺をちょっと見たら環境美化どころではない、草刈もしていないという部分があるのですけれども、周辺の草刈を含めた環境美化はいつやっているのか。それと当然、担当とすれば列車に乗ってからの駅を見える景観、これらも実践していると思うのですけれども、そのチェック体制等がどうなっているのかという部分。ここで130万円の予算を持っているわけだから、やはり少し綺麗に。私が見たのは6月の末ですから、札幌でだったか泉沢のああいう駅の周辺。ですから、7月になってもう綺麗に草刈もしましたということであればそれはそれでいいですから、もしそうであればそのチェックをきちんと。やはり、いさ鉄にリピーターを増やす意味でも必要なのかなというふうに思います。

それともう1点は、泉沢地区のかたからの苦情がありました。これは、保安だと思いのですけれども、夜中に線路の補修と言いますか保安をしている中で、かつてはJRの時は地域のかたに、きょう線路の工事、例えば砂利の入れ替えだとか入るので若干騒音、音だとかそういうもののチラシだとか口頭での注意喚起があつたらしいのですけれども、今回はなく、夜中に何の音だろうというやはり目が覚めたというかたから、JRの時はすごく親切・丁寧にそういう住民に案内があつただけけれども、三セクになったらJRと関係ないからそういうものは好きなようにできるのだということなのか。もう少しやはり細心の注意を払って、そういう騒音等が出るような工事であれば、事前に地域に周知をするというそういう一つの気配りが必要でないかというふうに思うのですけれども、その辺はどういう例えばいさ鉄の協議会等の中で、当然線路ですから保安もつきものですから、その辺はどういう議論をしているのかという部分についてお願いします。

吉田委員長 2点について、福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 まず駅周辺環境美化ということでございますけれども、これにつきましては一義的には会社のほうで管理するということになります。

それで、応援隊としましては会社のPRと言いますか、それをするお手伝いをするということで考えております。

現在、木古内駅については今後、ホームの撤去等がございますので、駅広とホーム等の間については、一部搬入路等も使うと思っておりますので、そこをいま会社のほうと工程と確認をした中で、今後来春に向けて整備していくことになろうかと思っております。

また、ほかの駅につきましては、状況を確認の上、応援隊としてどういった取り組みができるかということのをこれから検討していくという状況でございます。

それから、夜間工事の件でございますけれども、これは実は私もいまはじめてお聞きしたところでございまして、これにつきましてはJR時代どういった取り組みをしていたのか、現状どういような状況なのかということのを改めて会社のほうとも確認をして、対応してまいりたいというふうに思います。

吉田委員長 竹田副委員長。

竹田副委員長 例えば、環境美化の部分は会社が行うのだということだけれども、人任せではなくてやはり駅周辺というのはチェック。例えば、列車に乗れば車窓から見えるでしょう。私が言いたいのは、あれを見てどう思うかなという感じなのだよね。だとすれば、会社がやるから応援隊はあくまでもお手伝いだと。130万円を予算計上しているわけだから、もう少しその辺の会社がやってくれなかったら応援隊、あるいは別な部分であそこの

伸びているイタドリとかドングレ何かはやはり刈ろうじゃないかというふうにならないのか。だから、その辺のチェックとかするのを例えばいさ鉄の代表の町なわけだから、それとしてどうなのだという部分なのよね。だから、現場を例えばこれから見てどうこうという話だけれども。ということは、現場をチェックしていないというそういう捉え方でいいのかどうか。きょうは、これから現地調査があるわけだから、その帰りでも釜谷から順次、駅のホームの付近から見ればだいたい模様がわかりますから、そういうチェックも必要かなというふうに思うのですよ。ですから、保安の部分はきちんとやはり会社としても当然、我が町も株主なのだから強い発言力を出してもらいたいなというふうに思うのですよ。特に住民沿線の部分というのは、札幌・泉沢・釜谷が多いわけですから、そして何かJRの時から工事が日中ではなく夜中にやっているそうです。そういうことからすれば当然、そういうものが伴うわけですから、保安のシステムとかJRの時は札幌かどこかにたぶん委託しているはずなのですよ。だから、そういう部分とのあれをきちんと強く声を出してもらわないと同じ繰り返しになりますので、その辺まず駅周辺の部分はどうか。

吉田委員長 福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 先ほど舌足らずな説明だったかもわかりませんが、まず線路区域となれば我々応援隊が立ち入るといことになると、安全上立ち入れないというのがあります。そういった意味も込めて、会社と応援隊との役割分担と言いますかそういったものもきちんと整理をした上で、駅構内の例えば花の植栽ですとか草刈ですとかということを応援隊のできる範囲で、応援隊はあくまでボランティアでのまたお手伝いということになりますので、そういったものもどこまで負担を求められるかということも会社のほうできちんと整理をして、棲み分けを考えていくというふうに思っております。

吉田委員長 竹田副委員長。

竹田副委員長 予算に活動費で駅周辺の美化活動で27万円計上しているわけだから、これで私が言っているのです。会社がやるから応援隊はボランティアだと。何か無責任なような聞こえるのよね。

(「関連」と呼ぶ声あり)

吉田委員長 平野委員。

平野委員 竹田副委員長が言いたいのは、いまこの応援隊だけの活動の中で草刈をしてほしいということではなくて、我が町として町内の駅舎があるわけですよ。そこを当然ながら、観光客はもちろん地元の方々にも綺麗に景観も含めて使っていただきたいという考えから、それを当然ながら軽微して、実際は職員の皆さん町民の皆さんが見て、「草が生えてひどいね」と、いまは毛虫の問題もありますから。「ここをもうちょっと綺麗にしてほしい」という声があった時に、町としてどう動くのかということなのですよ。会社をお願いをするものなのか、応援隊をお願いするものなのか、若しくは職員さんが行くものなのか、そういう体制がどうなっているのだということです。

吉田委員長 福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 それにつきましては、私どもも気が付いたところは会社に伝えますし、また町民の皆さんからいただいたご意見、こういったものも当然伝えます。

それから、活動費の予算でございますけれども、これは例えば花で埋めまじょうとなれば花の種を買うとか、あるいは美化活動で駅周辺の清掃・植栽となっておりますので、これは例えば待合室をもっと明るく装飾しまじょうというのもそうですし、必ずしも外の環境に限ったことではないので、そこは待合室・駅舎を含めた景観を含めたトータルで、会社と応援隊との役割分担をしながら今後、より使いやすいイメージに良いさりび鉄道にしていくための手伝いができればということでございます。

吉田委員長 平野委員。

平野委員 いま応援隊の活動の中身について駅舎の中の装飾をはじめ、綺麗にするという話も出ましたので、その流れでちょっとお聞きしますけれども。木古内駅をきょうも来る前に見てこようと思って時間がなくて見てこれなかったのですけれども、オープン後に担当課長とも確か話をしたことがあると思うのですけれども、JRからいさりび鉄道に移行した3月28日以降の駅舎内が例えば例を言うと、元々JRで使っていた券売機だったり、上の電光掲示板の標示。いわゆる使わなくなったものをただ単に段ボールだったり、カレンダーの裏のような紙で貼っているだけだったのですよ。プラスお客さんにはお知らせをする、手書きが悪いという話ではないのですけれども、例えばいつ休みですよだとかの案内がありますよね。そういうのを何か粗末になっていると言ったら言い方は変ですけども、段ボールの裏のような紙にマジックで書いて貼っているだけみたいなのがすごい目立ちまして。とにかくオープン後1か月ぐらいはそういう状態が続いていて、非常に粗末と言いますか何か潰れた会社のあとみたいなイメージがあって、お客さんからもそういう声が実際出ていたのです。その後、現状どうなっているのかを把握していれば、もししていなければそれを見ていただいて、改善についての意見を行政からも伝えてほしいなと思っております。

吉田委員長 福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 木古内駅の待合の件でございますけれども、これはJR時代の券売機、あれは入ってすぐ左側にあったと思っておりますけれども。それから駅務室があってというようなことで、現在ただ中からブラインドを下ろしているようないま状況になっておりますけれども。これは、駅務室内部の改修と合わせまして、今後いさりび鉄道のほうできちんと壁を貼って、少しもっと綺麗にするという予定でございます。電光掲示板は撤去されて、もう既にないということでございます。

吉田委員長 平野委員。

平野委員 わかりました。最近、私も行けていないものですから現状はわからないのですけれども、見ていただいてお金をかけてやれという話ではなくて、そういうできるところはありますよね。そういうのはお金をかけなくても、観光客のかたに利用者に喜ばれるような清潔なイメージのような駅を気を付けてチェックをしてほしいと思います。

それともう1点、ながまれではなくて普通列車の中の椅子は、改修したのでしょうか。というのが、この前函館駅から乗ったら、元々4人乗りの椅子が海側も山側も並んでいたのが、片側だけが2人乗りになっていたのです。意味、わかりますか。4人掛けの椅子が両方あって、真ん中に通路があったじゃないですか。全部がそういう列車だと思っていたのですが、この間乗った列車は片側は半分になっていたのです。座席数が

少なくなった、それを元のが壊れてそれにしたものなのか、乗る人数が少なくてわざわざお金をかけて、それとも前からあったのかを把握しているのであれば教えていただきたいです。

吉田委員長 福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 いさりび鉄道にJRから譲渡をされて改修した列車は、なぐまれ号2両のみでございます。全部で9両ございますけれども、残りの7両については、JRから譲渡されたそのままの形で、現在運行をしているという状況でございます。

吉田委員長 平野委員。

平野委員 そうしたら譲渡される時に、いま現在江差線を走っていたところ以外で使っていたやつがきたということなのでしょう。いままで片側だけが2人乗りの列車というのは乗ったことがなくて、しかもその椅子が私のイメージかもしれないけれども、片側だけのほうが綺麗に見えたのです。なので、乗車されるかたも限られているので少なくしたのかなというイメージが、それも報告を受けていないですから。且つ、上磯から函館までは時間帯によりましてけれども、結構人が乗られるのです。たまたまその列車に乗った時は、上磯から今度は立つ人が多くて、座席を少なくしたお陰で座れないという状況もあったものですから、当然ながら譲渡する際、あるいは改修をしたのであれば当然それを把握していなければならぬなと思ったものですから。プラスもう1個、例えばトイレを洋式にしてほしいという話をこの中でも出た時に、当然工賃代がとてつもない金額になるというお話も聞いたのですけれども、そこで難しいのが列車ですから安全・安心を考えて、10両一つでとんでもない調査だったり設計を変えなければならない、それにお金がかかるのだという話を聞いていました。であれば、今回四つの椅子からいわゆる2人乗りのに半分の重量になったわけですから、安心・安全の面でも問題がないのかどうなのか、改修をしたのであれば。その辺ちょっと、いまお返事ができなければ調べていただいで、後日お返事をいただければなと思うのですけれども、いかかでしょうか。

吉田委員長 福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 先ほど申し上げましたとおり、いさりびで改修したのはなぐまれ号2両のみということでございまして、JRから譲渡を受ける車両につきましては、当時確認をした中で全て中古車両ですので、極力程度の良い車両を選別して譲渡を受けるというご説明をしてきたところでございます。

私も実はそれをここを走っていた車両が9両なのか、それとも道内のどこか別のところから持ってきたものか、どこから持ってきたものというところまでは把握をしておりませんので、そこは今後ちょっと確認をして、ご説明をさせていただきたいというふうに思っております。

吉田委員長 又地委員。

又地委員 利用状況の件だけれども、これは例えば3月は6日間で1万4,000人。これは、どこからどこまでの利用客ですか。こんな不親切なのではないと思うのです。例えば、全員がこの1万4,000人とか6万1,000人というのは、木古内から終点の函館までという捉え方でいいのかどうか。至ってこれは不親切だし、何かあれですね。あんまり信用できませんね。ということは、4月から木古内から函館まで通学している子ども達は、

ほとんどが五稜郭で降りるのですよね。そういうことを考えたら、これはどこからどこまでの利用状況を言っているのかさっぱりわからない。この数字というのはどういうあれなのですか。本来であれば、例えば木古内は町内は別としても、木古内から上磯だとか上磯駅から例えば五稜郭、あるいは函館までとそういうふうに細かくして、トータルで例えばいくらだとか出してくるのが当たり前ではないですか。これは、ただ担当課のほうでいさりびのほうに聞いて、それをそのまま出したという感じですか。何か不親切で、概ね経営計画どおりになっているというけれども、どんな分析にしてそういうふうになっているのかとさっぱりわからないですよ、これなら。どうですか、これを見て。

それと、新聞に何回か載っているのだけれども、道南めぐりの観光列車。これは、JR北海道さんでやるのかJR東日本さんでやるのかわからないけれども、もしそうなった場合にはいまのいさりび鉄道を使うわけです。使うことになると思うのです。そうすると、そういう商品を出すということも新聞にも載った。そうすると当然、使用料が入ってくるのですよ。そういう話というのは、担当としていさりび鉄道さんの会社のほうに行って調査をしているのかな。これは、大変経営上にはプラスになることだと私は思っているのですよ。いさりび鉄道を使うのだから、使用料をもらわないとだめだと。何もやっていないのではないのかなと思うのですよね、担当課のほうで。そういうのはどうなっているのか教えてください。

（「関連」と呼ぶ声あり）

吉田委員長 鈴木委員。

鈴木委員 いま又地委員からもありましたけれども、お答えできる範囲で構いません。

先ほど、5月28日からなごまれ号が順調に運行をされているという状況の報告の中で、開業前は観光列車はやらないという部分から考えますと、スピード感があってそこは評価されている部分なのかなと思うのですが、料理が出たりいろいろお食事をされるわけですよね。いさりび鉄道としては、収入は運賃だけなのか。それとも、いま又地委員からもありましたけれども、いま現在のいままでの運行された部分で、いわゆる運賃以外の使用料もいさりび鉄道さんがいただいているのかどうかという部分、そのわかる範囲でちょっとお答えいただきたいです。と言いますのは、概ね計画どおりという部分で黒字計画のままで、確か前回と前々回の委員会の時もJRからの赤字体質の部分で、黒字の経営計画が出すべきだという話もあったと思うのですよね。それを考えると、乗車率は上がっても利益が上がらないという部分になればどうなのかなと思ったので、その部分についてわかる範囲で構いませんのでお願いいたします。

吉田委員長 関連も含めて3点、お願いします。

福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 まず利用状況の数字でございますが、これはいさりび鉄道のほうで公表している数字ということで、私どもとしましては乗車区間は把握してございませんので、これはあくまで乗車した人数と。区間はどこからどこまでというのは、把握してはございませんでした。

それから、道南めぐりの観光列車は、これは四季島等の報道されている列車だと思いますけれども、これはいさりび営業区間を走行した場合は運賃収入。これがいさり

び鉄道に入るといふうに伺っております。

それから、いさりび鉄道のながまれツアーに関する収入でございますけれども、これについては所在しているのは日本旅行さんで、チケットの販売、宣伝、弁当の手配、全てツアーについては日本旅行が行っております。いさりび鉄道については、臨時列車となりますので、その乗客数に応じた運賃収入がいさりび鉄道に入ってくるということになります。

吉田委員長 又地委員。

又地委員 福田課長、例えばこれはいさりび鉄道のほうから教えてもらった数字だと。だめでしょう、それなら。例えば、いまは概ね経営計画どおりだと言っている。だけれども、例えばだんだん10年後には16%落ちると言うのでしょうか。それは人口減だとかいろいろあるからでしょう。だけれども、町として赤字になれば負担が増えるから困るわけです。そうすると、いつの時期かにはいさりび鉄道に乗ろうと啓蒙しないとだめなのです。これは、我が町だけではないですよ。北斗市のそういう啓蒙しないとだめな時期が来るだろうと。であれば、分析をしておかないとだめではないですか。木古内から何人乗っているとか、例えば20人乗ったと。その20人のうちの五稜郭駅までは、学校に行く子ども達だ。函館まで行くのは大人が通勤だとか、そういう分析をしておかないとだめではないか。何もやらなければじり貧で赤字でペアだ。ペアになってしまうのだ。しないためにはいつの時期かには啓蒙をしないとだめだ。みんな乗ろうという。その乗ろうということをするためには、やはり細かい分析をしておいてもらわないとだめではないか。それは、いさりびさんがやるのかうちの町自体としてやるのか。教えてもらった数字をそのままならだめだ。もう少し突っ込まないとだめではないですか。この中を因数分解したらどうなるのかということまでいかないと仕事でないでしょう。と思うのだけれども、町長どうですか。ただ、報告をされた。いさりびからの報告がこうでした。それで終わってしまうのかな。だめでしょう、それなら。考えだけ聞いておきます。

(「関連」と呼ぶ声あり)

吉田委員長 鈴木委員。

鈴木委員 ながまれ号が3時間というところで、それがいさりび鉄道の経営的に通常運行をするよりもどれぐらい利益があるものなのか。もしかしたら、そんなのないものなのか。その辺りをできる範囲でちょっと把握したいなというのはあります。もちろんそのことで沿線の地域が経済活性化をするのは良いことなのですが、先ほど又地委員からもありましたが、それが本当にながまれ海峡号いさりび鉄道にとって、本当に利益になっているのかプラスになっているのかという部分がちょっと不透明なので、続けてよろしく願いいたします。

吉田委員長 福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 ただいまの質問につきましては、会社としてながまれ号ツアーの収入がどうなのかということでございますけれども、先ほどご説明したとおり、運賃収入が会社に入るだけということで、会社とすればこれが大幅な隔週で臨時列車が運行をするわけですから、大幅な収益増につながるというものではございません。しいて言えば会社としては、新聞・メディア等で取り上げていただいて、道南いさり

び鉄道の宣伝・PRになるものというふうにそういった側面のほうが大きいのではないかというふうには考えてございます。

それから、先ほどの人数ですけれども、これはあくまで乗車した人数ということで、一区間であっても木古内から函館であっても、とにかく乗った人数、全体数というものがこの数字でございます。

吉田委員長 又地委員。

又地委員 だから、区間ごとのあれはもらっていないのでしょうか。そうしたら、それをいさりびさんに言って出してもらおうのです。そこまでしないとだめではないかということを行っているのです。それでないと、あとからうちは困りますよ。困るような時期がくるわけだから。

吉田委員長 福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 その内訳につきましては、会社のほうともきちんと相談をして資料等をいただきながら、今後分析を進めるということも合わせて行っていきたいというふうに思っております。

吉田委員長 ほか。

(「なし」と呼ぶ声あり)

吉田委員長 町長。

大森町長 お尋ねにない件で情報も含めてお話をしたいと思います。

まず、9両のうち2両については、北海道からの補助金によってながまれ海峡号が整備されました。これは、外も中も変えた。しかし、中は取り外しが自由にできるような仕組みになっております。これは、すっかり変えるということになりますと、許認可という手続きがありますので、開業に間に合わなかったということで、取り外しが自由な形になっておりますので、その時々用途に合わせて中身を変えるということになっています。残りの7両ですが、これは自費で外側を外装塗装するという計画でおります。一遍にできませんので、逐次行っていく。そして、いまの車両とは違って色も黄色だったり、オレンジの車体だったりというようなことを検討しているというふうに伺っております。それで、これまでの懐かしのJRの列車からいさりび鉄道独自の模様に変えていくということで、計画をしているということでございます。

そして、これらの経費ですとかJR北海道から譲り受けた様々な設備は老朽化が進んでおりますので、引き継ぐ前に相当お願いをして直してはもらったものの、まだまだ古いところがたくさんありますので、そこにもこれからお金がかかってくる。あるいは、予定をしていなかった費用についても、かかる可能性がある。そうしますと、負の部分は増える要素はあるのですが、収入の部分については、なかなか見出せない。先ほど来のお尋ねにもありましたように、観光列車が走る時には運賃収入よりいさりび鉄道には収入源としては入ってこない。旅行業者の許可を持っていませんので、これは全て日本旅行さんが収入となると。しかし、福田課長からの説明がありましたように、これをテレビ・新聞に載せるということになると何千万、何億というお金に相当するだけのコマーシャルの価値はあるということで、継続して行うということになっております。

また、先ほどの特別列車につきましては、詳しい話は聞いていませんが、これは線

路使用料としていただくのか、あるいは乗っている人数分だけの運賃をいただくのか、この辺は確認をした上で、お知らせしたいと思います。

そうしますと、どうやって収入を上げるかというのが、これからの問題になってくると思います。乗降客を増やすというのは当然でございますが、これには限界があります。住んでいるかたの人口減少等を考えて、見込みが先ほど説明をしておりますが、それでは外からのお客さんをどれだけお迎えをするというのもこれも一定の限界があります。そうしますと、乗っていただくお客様に加えて、乗らないお客さんからの収入を得るということが、大事になってくると思います。様々なグッズの販売をとおし、売上以上のグッズ販売をしてはじめて10年間で23億がそれ以上増えないということになると私は思いますので、これは会社のほうに常に提言をしてその実現に向けて、努力をお願いしたいと話しております。例えば、こんな提言をしております。道南いさりび鉄道にはキャラクターがありませんので、キーコとズーシーほっきーとイカール星人、三つセットをいさりび鉄道のキャラクターと。単品ではそれぞれの町が行っていますが、キーコは木古内町が自由に使っている。ズーシーホッキーは北斗市に許可だけもらえばいい、イカール星人は市の公式キャラクターではありませんので、作者のほうに協力をお願いすればいい。この三つをふっついたのがこれは道南いさりび鉄道のキャラクターなのだと。こんな三つふっついたのはありませんので、これはこれでまたヒットの予感もしますし、こんなことを提案したり、せっかく綺麗ないさりび鉄道の車体でございますから、これをもっと様々な品物を加えて、そしていろんなところで売るということが大事だということで、私のほうで提言をしているところでございます。

また、いまいさりび鉄道に対する様々なご心配のご意見をいただきましたので、これにつきましては、一つひとつ解決をしていかなければならないと思います。いさりび鉄道は限られた人数で事業を行っておりますので、余剰人員がない状況にあります。したがって、一遍に言っても全てできないことがありますので、一つひとつきちんと成果が上がるようにして、その応援に協力隊もあるわけでございますので、協力隊の皆さんの力も借りながら皆さん方がご心配しなくてもいいようないさりび鉄道の経営をしていきたいと思っております。以上でございます。

吉田委員長 佐藤委員。

佐藤委員 1点だけちょっと確認をしておきたいと思います。

1ページなのですが、観光列車ながれま海峡号とあります。その下に、ながれま海峡号とあります。これはどちらでもいいのですか。

吉田委員長 福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 大変申し訳ありません。丸の観光列車ながれまになっていまずけれども、これはながれまです。訂正をお願いしたいと思います。

吉田委員長 竹田副委員長。

竹田副委員長 いま町長から説明があったながれま号以外の列車については、リフォームをする。これに実現が可能かどうかはわからないですけれども、キーコのキャラクター。公用車だとかバスばかりではなくて、列車にも例えばこれは木古内町の列車ということにならないだろうけれども、キーコのキャラクターで列車を飾ると。そう

ということが実現が可能かどうかは別に、多少予算はかかるかもわかりませんが、やはりそのくらいのことと、それと住民に対してながまれ号の乗っていただくチャンス。例えば、先ほど福田課長の説明で観光列車のあれが3,000いくらかときましたよね。約4,000円くらいのチケット。例えば、列車の料金プラス弁当代とかそういう食事代がプラスになっているから、やはり4,000円くらいかなと思うのですけれども。だとすれば、それに例えばこの列車に乗ってもらう、いさりびに関心を持ってもらうという部分からすれば、毎回でなくていいですから、例えば何月何日のイベント列車に木古内も協賛をして、町民のかたには例えば2,000円のチケットを補助するとか、そういうことも少しやはりいさりび鉄道に関心を持ってもらうために、必要ではないのかなという個人的にはそういう気もするものですから、そういうのも含めてキーコのキャラクターを是非実現してもらいたいということ。これは町長、いろんな接点の中で訴えていただきたいと思います。

吉田委員長 町長。

大森町長 外装の件でキャラクターを載せるというのは、非常に良い提案だと思います。現在、道南いさりび鉄道で検討・計画をしているのは、できるだけ経費をかけないでいまの外装で函館をモチーフにしている、ああいうデザインを残しながら、できるだけ色を少なく安価に上がるようにということを計画しておりましたので、これはまた別件でこのような申し入れをしていく必要があると思うのですが、まだ道南いさりび鉄道でもキャラクターを決めているということにはなっていないものですから、相当以前から提案はしているのですが、そこ自体がまだ決まっていないということで、何とか決めていただければ列車のほうにも反映できるのではないかと思いますので、引き続き強く申し入れをしていきたいと思っております。

また、住民の皆さんが道南いさりび鉄道、またあるいはながまれ海峡号に興味を示していただいて、乗っていただくということでは、町の何らかの行動も必要でしょうし、また地域で行われている様々な事業・イベント何かの景品に、そういったものを使うというのもあるでしょうし、これは私どももこれからの課題として検討していかなければならないと思っております。

吉田委員長 ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ声あり)

吉田委員長 ないようなので、道南いさりび鉄道の運営及び経営状況につきましては、終了させていただきます。

(2) 高規格幹線道路函館・江差自動車道の整備促進に関すること

※現地調査含む

吉田委員長 時間が迫っていますので、2番目の高規格幹線道路函館・江差自動車道の整備促進に関すること、これを議題としますが、概要の説明だけ受けます。

そして、質問につきましては、町の事業ではございませんので、現地調査の中で質問を受けますので、よろしく願いいたします。

それでは、建設水道課構口課長から概要説明をお願いします。

構口建設水道課長 建設水道課構口です。よろしくお願ひします。

私のほうから函館・江差自動車道の茂辺地木古内道路の概要について、説明をしたいと思ひます。

函館・江差自動車道茂辺地木古内道路は、道央圏と道南圏を結ぶ北海道縦貫自動車道に接続する函館新道及び函館新外環状道路と、函館空港及び重要港湾函館港とのアクセス機能の強化を図る、広域交通ネットワーク形成を目的とした高規格幹線道路となっております。

茂辺地一木古内道路に関しては、平成6年に事業化されまして、平成10年に用地補償の着手をしており、工事のほうは平成13年から着手しております。いま現在、平成31年の供用開始にむけ、施工中でございます。

起点につきましては北斗市茂辺地、終点については木古内町の字大平となっております、延長が16kmとなっております。

構造規格としては、第1種第3級道路という規格でございます、設計速度、車が走れるスピードです。それを80kmとして設定しております。

図面のほうは、4ページをお開き願ひます。

図面にあるとおり、図面の右側のほうが茂辺地木古内間の道路になっておりまして、工区として3工区に分かれております。

1工区間は、北斗市の区間になっておりまして延長が4.6km、2工区、これは木古内町に入ってきました4.1km、3工区が7.3kmの区間で施工中となっております、平成27年度末現在、進捗率が68%となっております。

主な構造物として、きょうこれから視察する北斗市と木古内町の町境であります渡島トンネル、図面でいくと四角で囲っている部分になりますが、これが延長2,518mとなっております。

そこを区切りに、木古内町の区域として2工区と3工区がありまして、この間でまず橋梁が6本ございます。道路工事として、それぞれ6本あります。ちょっと図面が小さくて申し訳ないのですが、2工区のところで大釜谷川橋、橋長が298m、その次が大坪沢川橋、橋長が140mとなっております。3工区に入りまして新亀川大橋、橋長が469m、きょうはこちらのほうの橋を視察するというようになっております。次に、新橋呉橋233m、ポンクレ橋79m、新幸連橋82mとなっております、それぞれ施工中となっております。

なお、きょうこれから開発局さんの協力を得て、渡島トンネルと新亀川大橋の視察のほうをお願いすることになっております。以上です。

吉田委員長 それでは、概要説明が終わりました。

現地調査が終わるまで、暫時、休憩をいたします。

休憩 午後2時04分

再開 午後4時30分

吉田委員長 それでは、休憩を解き、会議を再開いたします。

大変、皆さんお疲れ様でした。現地調査を済みました。高規格幹線道路について、皆さんからもし何かありましたら、受けたいと思ひます。

又地委員。

又地委員 これは町長なのだけれども、町長がたまたま高規格道路の開通は30年と言っています。私は2回くらい聞いているのです。これからも間違わないようにしてください。

吉田委員長 それでは、ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ声あり）

吉田委員長 それでは、以上をもちまして、第5回総合交通体系調査特別委員会を終了いたします。お疲れ様でした。

説明員：大森町長、大野副町長、福田まちづくり新幹線課長、丹野新幹線振興室長
加藤（隆）主査、中村主事、構口建設水道課長

傍 聴：なし

報 道：なし

総合交通体系調査特別委員会
委員長 吉 田 裕 幸